

# History

キラリを再発見

## 周辺に古地名が残る比木地区の城跡

比木殿ノ山城跡は、比木の三間地区に位置し、牧之原台地から延びた舌状台地を利用した平山城です。標高は52m、比高20m程の小高い丘に築かれています。

中心となる曲輪は、東西20m、南北60mで、台地からの尾根続きを幅3～5mの屈曲した空堀によって遮断しています。周辺には「おかたやしき」、「うえやしき」、「遍照寺」、「おおみどう」、「りょうもん」、「多良ヶ谷」などの古地名が残っています。おかたやしきからは13世紀後半のものと思われる四耳壺や鎌倉時代の山茶碗などが出土しています。また、遍照寺からは室町時代の宝篋印塔の相輪が2点出土しています。

このことから、この地域を治めていた比木氏の館がこの根小屋にあり、館の防衛を比木殿ノ山城が担い、尾根続きの牧之原台地上にある比木城山がその詰城の機能を果たしていたと推測されています。なお、虎口の残りが良く、進化した形態であることから、戦国期に改修されているものと考えられます。

照会 社会教育課 ☎0537-298735



▲殿ノ山の全景(南側上空より)



▲四耳壺(おかたやしき出土)



▲宝篋印塔の相輪(遍照寺出土)



原子力防災センターでは、広域避難をしてきた避難住民に対し、避難退域時検査済証の確認、避難者名簿の記入、避難所への案内など運営体制を検証しました。

御前崎市からは約130人が参加し、市内の集合場所から出発したバスは、まず放射性物質の汚染検査所である竜洋海洋公園(磐田市)で検査を受けてから、模擬的に避難経由所が設置された原子力防災センター(牧之原市)へ向かいました。

静岡県原子力防災訓練が2月16日に実施され、静岡県、御前崎市、島田市、県警本部、中部電力(株)など、合わせて約800人が参加しました。今回の訓練では、避難者の第一目的地となる避難経由所の運営訓練が初めて行われました。

# Atomic

暮らしと原子力

静岡県原子力防災訓練で初の避難経由所運営訓練を実施



▲避難経由所(原子力防災センター)の様子

